

2 活動の経緯と目的

現在建設されつつあるみなみ野シティについて、まちづくり特にユニバーサルタウンを実現するための実践的な取り組みをおこなっている。

まちづくりを進めるためには、これを担う主体、特に地域コミュニティの形成が重要である。このためのプロセスをどのように組み立てていくかを活動の中心に置いている。

現在展開している研究活動は生活デザインセンターの基本的な研究実践活動であるとともに、地域コミュニティを形成する活動でもあり、このような活動体を形成することがユニバーサルタウンを実現し、生活デザインを現実のものにする要であると考えている。

このような基本的考えのもとに、大学等が教育研究活動を通して主体的に関わりながら、みなみ野シティの母親、保育園、小学生、小中学校、居住者、地元商店との連携を深め、地域コミュニティを形成し、これを通してまちづくり、ユニバーサルデザインの実現を図ることを目指している。

1) ユニバーサル・マップの作成とユニバーサル・サインの提案

ユニバーサル・デザインについてみなみ野シティ居住者に理解を得るステップを経て、居住者によるみなみ野の町の踏査によって、居住者自らによるランキングを行い評価する。その結果をまとめてユニバーサル・マップを作成する。

更に香りや草花を使ったユニバーサル・サインやツールの開発などの提案を行う。

2) みなみ野シティを学ぶ総合学習への参加を通して、みなみ野シティのガイドブックを作成 小学校のみなみ野シティを学ぶ総合学習に大学生、高校生、中学生が参加することによって、小学生と共にまちをみる視点を共有する。

小学生の自発的なまちについての興味を発展させながら、まちについての理解を深め、その結果を小学生のためのみなみ野シティのガイドブックとしてまとめ上げる。

このようなまちについての子どもたちの発見や活動は両親をはじめとする大人たちの参加を促し、地域コミュニティ形成を活発にするとともに、まちづくりに対する理解と今後の貢献をする基盤の形成が期待できる。

3) イルミネーションへの地域コミュニティの参加促進

イルミネーションは3回目を迎えるが、今年度は更に1) 2) の活動の中で形成されつつあるグループの参加を促進するとともに、スポット的なイベントなども企画することによって、みなみ野シティとしての地域コミュニティがよりはっきりとした形で形成されるよう働きかける。

4) まちづくり憲章の提案

以上のような様々な活動を通して、コミュニティのまちに対する意見をくみ上げることによって、まちづくりに対する基本的な理念をまちづくり憲章として提案する。

3 活動の内容及び成果

3 - 1 ユニバーサルマップ研究

3 - 1 - 1 ユニバーサルマップ作成の背景

みなみ野シティは、都心から約40kmに位置し、開発面積394.3 ha、計画人口28000人、8450戸という規模の住宅地域であり、自然との共生を目指した「アーバンシティ」を実現しようとするものである。現在も開発途上で、11360人余りが暮らしている。

単なるベッドタウン化しないように、住民の自主的活動なども芽生え、一応の成果を収めつつあるが、より生き生きとした豊かな暮らしを実現する努力をし続けることが重要である。住民と地域に関係する多くの人びとの協働によって、多様な暮らしを内包するコミュニティと個性豊かな地域が形成され、みなみ野に住むことの誇りを実感させることになる。

本研究には、「ユニバーサルマップの作成」と「ユニバーサルサインの提案」が含まれる。ユニバーサルサインについては次節で述べる。

ここで用いたユニバーサルという言葉は、昨今、注目されている「ユニバーサルデザイン」から得たもので、提唱者ロン・メースの「全ての人に利用可能であるように、製品、建物、空間をデザインすること」という考え方を前提にしている。

3 - 1 - 2 ユニバーサルマップ作成の目的

みなみ野に関わる全ての人びとにとって快適で安心できる生活環境をつくり続ける活動を継続させること。

住民等が自主的に参加し、地域の外部環境について良い点、問題点を発見し、これらを共有して、解決法を考える。

生活者の視点からのユニバーサルマップを作成する。

自分たちの生活環境について関心を持ちつづけることで、コミュニティ形成を図り、その装置として「ユニバーサルマップ」を位置付ける。

今回は、ケーススタディとして、地域を限定して実施した。今後、みなみ野全体に展開するための方法を確立するための改良点を抽出することを目的とした、予備的な実施である。

3 - 1 - 3 活動の内容

- 1) 参加者が実際に地域を歩き、みなみ野の町並みや道路について、良いところ、悪いところ、注意すべきところ、改善すべきところ等、について把握する。同時に、子供、高齢者、体の不自由な人等の身体的弱者、目的の違い、状況の違い、移動手段の違い等の場面を想定し、その立場で判断する。あらかじめ用意されているアイコンシールを使って、白地図上の場所に貼り、コメントを添え、その状況をカメラ撮影する。
- 2) 参加者による報告会とディスカッションを行い、ユニバーサルデザインの視点にたった地域の現状を把握する。さらに、「ユニバーサルマップ」作成についての改良点を検討する。
- 3) これらを踏まえ、全ての人にとって快適で安心できる地域環境の形成を目指した「ユ

「ユニバーサルマップ」作成のための資料化を行う。



左:みなみんぐキット 右:みなみんぐの様子

3 - 1 - 4 活動の成果

参加者の共通意見として、「ユニバーサルマップ」作成のマニュアルがわかり易く、かつ、主要な場所の特性を示すアイコンシールが用意されていて、楽しみながら実施できたというものがあり、さらに、さまざまな発見と多様な視点からの判断が得られ、基本的な実施方法として有効性を確認できた。

ユニバーサルデザインを背景にした生活者からの視点が共有でき、さらに「ユニバーサルマップ」の作成を継続させることで、コミュニティの形成を実現できるといった認識が参加者に生まれた。これは本研究の最も重要な意義である。これに関する参加者の意見の一端を記す。

- ・「バリアフリーの街とは感じられなかった。」
- ・「歩道と車道の段差がないのは良いが、歩道であることを視覚的に明確にしてあるともっと良い。」
- ・「サインデザインを充実させる。現時点では、地域にある公共施設に対するサインがなく、たどり着きづらい。景観を損なうことのないサインデザインが必要。」
- ・「坂の勾配の程度をわかるようにすると良い。」
- ・「街路樹が道ごとに違うと楽しみが増える。」
- ・「冬でも、もう少し花や香りのある街づくりへ。住民が戸外へ出やすい環境作りが必要。」
- ・「実施組織をつくり、常時情報を収集する。」
- ・「地域住民、地域内の学校の先生向けにレクチャーして全域に広げたい。」
- ・「住民が主体になり、様々な年齢層の人が参加し、かつ継続することが大事。」

3 - 1 - 5 今後の展開

地域内の学校に勤務する教員の参加者から小学生および中学生を主体とする実施について強い要望があり、授業の一環として継続的に行えるよう計画したい。いずれにしても、時間のかかるプロジェクトであり、地域住民の共通理解が高まるように、NPO 生活デザインセンターから情報発信し、地域住民の主体的な関わりによる個性豊かな街づくりがなされるようその支援を積極的に行ってゆきたい。

本研究の詳細については、添付した資料をご参照いただきたい。

3 - 2 ユニバーサルサインの提案

3 - 2 - 1 活動の背景

活動対象であるみなみ野シティは、丘陵を削って住宅地に開発した地域である。ここにはまだ広い空き地や森林が計画的に残され、自然環境との共生都市を形成している。すなわちこの住民は、豊かな自然環境と人工的にデザインされた居住環境を上手に融合させながらコミュニティを形成しているといえよう。

この自然との共生という背景の中で、植物が五感へ訴える自然の刺激、つまり香り、彩り、実りなどに注目してみた。それはこの自然の刺激が身体障害の有無や年齢に関わらず、通りや街角の位置、地域の区別、季節の移り変わりなどを私たちに各感覚を通して認知させてくれるからである。ゆえにこの刺激をユニバーサルサインと称して私たちは活動を進めた。

3 - 2 - 2 活動の経緯と目的

当センターのユニバーサルファッショングループでは、昨年 4 月から栃谷戸公園内でみなみ野自然塾とのコラボレーションによりハーブ(ミント)の栽培を行ってきた。この活動では住民が集って育てた癒し効果のあるハーブを、家庭へ、公共施設へ、街の中へと広めていくことが目標であった。

今回のユニバーサルサイン活動の目的は、今までのミント栽培の経験を生かし、みなみ野の道路(通り)ごとにサインとなる香り、花の色、果実のなる木などの植栽計画を提案することである。さらにミント栽培を例にして、その植物の管理の仕方、収穫後の利用について、各作業における住民の係わり方などを検討し、住民参加型の街づくりを目差すことである。

3 - 2 - 3 活動内容

- 1) 主要な道路(通り)を地図上で選定し、実際に観察して特徴を把握する。
- 2) 各道路(通り)の特徴ごとに適した植物(花、ハーブ、果実の木など)を提案する。
- 3) ハーブ(ミント)栽培を例にして、栽培管理について年間計画を検討する。
- 4) 収穫後はミントの利用を例としてポプリを試作する。
- 5) 栽培および収穫物の利用への住民参加について検討する。

3 - 2 - 4 活動の成果

- 1) 各道路の特徴と 適した植物の提案(添付資料3・2・4・1～5)

・道路 1...国道 16 号に接続してみなみ野大橋につながる。富士山が見える。

< 現時点では低木のサツキツツジが植樹されており、この植物は赤いので視覚的に他の道路との区別がつく >

・道路 2...みなみ野の主要施設(駅、ターミナル、商業施設など)に面したメインストリートである。交通量や人通りが多い。

< 現時点の低木は緑が多いため、視覚的サインを強調して香りよりも鮮やかな色の花の植物を提案する。 >

- ・道路3...マンションやアパートなどの集合住宅や個人商店の商業施設に面しており、人々が最も多く利用する。
<住民の生活に関係した植物としてハーブを提案する。ミント、バジル、パセリなど>
 - ・道路4...他の道路よりも自然とのつながりが深く、公園に面している。
<公園と同じような感覚にするために野草や牧草を提案>
 - ・道路5...この道路の両端がみなみ野の外部からの入り口になっている。
<比較的に特徴が薄いため、香りの強い植物を提案する。ラベンダー、セージなど>
- 2) ハーブ(ミント)の栽培作業の年間管理
- ・栽培及び収穫までの作業を年間通してみると、3月下旬 種から苗作り、5月 植付け、間引き、6、7、8、9月 草取り(数回)、7、8、9、10、11月 収穫(数回)、次年4月 根がついているのでそのまま成長する。
 - ・ハーブ栽培方法には、ユニバーサルサインとして道路3のような場所に植栽する方法とその道路に面した家の庭で育ててもらおう方法などがある。
- 3) 収穫後のミントの利用法(添付資料6)
- ・7月～11月に収穫したミントは、その都度自然乾燥させてドライハーブにする。そのドライハーブの量は、畑の面積約 10 m²(2m × 5m)から約4kg が収穫された。
 - ・実物サンプルとしてポプリを木綿の生地で作した。(1袋に約10g入れて約400個のポプリができる)
- 4) 住民参加について
- ・ユニバーサルサインとして植物を街の中に植栽するという活動を住民に浸透させることは重要である。
 - ・植物を維持させるということで住民の交流が生まれ、1年周期で作業が継続していくためにさらに交流が深まるであろう。
 - ・小・中学校の協力により授業の一貫として植物維持をはかることは、自然との共生都市であるこの地域では教育上効果的である。
 - ・サイン以外の利用として、収穫した実りを料理し、物を作り、それを使うということの楽しさを広める必要がある。

3 - 2 - 5 今後の発展

ユニバーサルサインの植物は、道路だけではなく公共施設などの入り口にも植栽し、屋内であればポプリをサインとして設置することも検討している。

3 - 3 「七国小学校5年生による「七国・みなみ野ガイドブック2003」の作成」に対するNPO生活デザインセンターの支援

3 - 3 - 1 活動の背景

NPO 法人生活デザインセンターの会員である東京家政学院大学の教授・大学院生は、八王子市立七国小学校5年生の「総合的な学習の時間」(以下総合学習という)、「知ろう伝えよう!七国・みなみ野」の学習活動に地域貢献活動の一環として参加していた。当初「ガイドブック」は、この活動のサブテキストの作成を想定したが、むしろ総合学習で学んだ成果を、子ども達自身の手によって「ガイドブックとしてまとめ上げる」ことが、子どもから両親へ、親から親へ、子どもから町へ、両親から町へ、といったつながりを活性化し、まちづくりの基盤であるみなみ野シティの地域コミュニティ形成に有効である。このような判断に基づき「七国・みなみ野ガイドブック2003」の作成を提案、これに対する支援を生活デザインセンターが行うこととした。

3 - 3 - 2 活動の経緯と目的

総合学習のねらいは、「自分も七国・みなみ野というこの町をつくっている一人であるという自覚を持ち、様々な立場の人にとって住みやすい町にするために、自分にもできることがあることに気づき、実行しようとする。」ことである。まさに生活デザインセンターが目指すまちづくりの活動主体の形成やこれを支える地域コミュニティ形成の一つの方法が示されているといえる。

「七国・みなみ野ガイドブック2003」を作成することによって、子どもたちがまちづくりについての理解を深めるとともに、このガイドブックを通して子どもたちの町やまちづくりに対する思いを地域の人々に伝え、この町を訪れる人々に伝えることは、生活デザインセンターが推進するユニバーサルタウンの実現の基盤を形成する上で極めて重要である。

3 - 3 - 3 活動の内容

- 1) この総合学習は、小学校・中学校・高等学校連携の国のモデル事業であり、七国小学校と連携する東京都立第二商業高等学校、東京家政学院大学と生活デザインセンターの役割分担を明確にした。高等学校は情報処理科であり、「知ろう伝えよう!七国・みなみ野」の「伝えよう!」に関連するパワーポイントを用いたプレゼンテーションの方法を小学生に教える役割を担っており、ガイドブックについてもプレゼンテーション方法を大学生とともに、小学生に教えることとした。生活デザインセンターは、小学生が作成した原稿をもとに、最終的なデザインの確定と版下の作成、更に面付けを行った完成原稿の作成を行った。
- 2) 印刷は500部とし、配布先は小学生の聞き取り調査対象及びみなみ野を訪れる人への配布を考えている。

3 - 3 - 4 活動の成果

- 1) 総合学習の成果をガイドブックにまとめることによって、子どもたちは、まちづくりに

対してより身近なものに感じることができた。

- 2) ガイドブックを作成することによって、小学生と共にまちをみる視点を共有することができた。

- 3) このようなまちについての子どもたちの発見や活動は両親をはじめとする大人たちの関心を引き付けている。



七国・みなみ野ガイドブック 2003

3 - 3 - 5 今後の展開

- 1) 本年度の残された課題は、ガイドブックの配布先の検討である。ガイドブックをつくってみてはとの生活デザインセンターからの提案に対して、子どもたちから「みなみ野を訪れる人に是非この町のことを伝えたい」という強い思いが示されたことは、この事業の最大の成果である。具体的なガイドブックの完成品を前にして、子どもたちがどのように配布方法を考えるかを見とどけ、その効果を検討する。
- 2) 子どもたちのガイドブック作成を契機として、当初企画したサブテキスト的なガイドブックの作成を検討する。しかし当面は資料収集、又そのテキスト作成者を発掘することが必要で、むしろ「まちづくりサイト」を立ち上げ運営し、徐々にガイドブックが形成され更新されるシステムをつくりあげることが重要と考えられる。

3 - 3 - 6 活動のポイント

- 1) 活動の人材

本事業は、総合学習は、小、高、大の連携で実施されたが、ガイドブック作成については、生活デザインセンターが役割を担った。いずれにも東京家政学院大学の大学・大学院生が参加した。必ずしも総合学習に参加した学生が、ガイドブックを作成するとは限らず、大学の授業と生活デザインセンターへの参加の連携を密する方法を検討する必要がある。

- 2) 活動のための資金調達

ハウジングアンドコミュニティ財団の資金を充当した。まちづくりサイト立ち上げについては、継続できるように、運営資金の確保を検討する必要がある。

- 3) 活動のネットワーク・支援

七国小学校の総合学習に対する参加は、生活デザインセンターのネットワークを広げたが、この事業に直接有効であったとは言えない。今後の事業展開に大いに期待できる。

- 4) その他

3 - 4 みなみ野冬のイルミネーション

3 - 4 - 1 活動の背景

年末の JR 八王子みなみ野駅前を飾る「イルミネーション」は、平成14年度を第1回として今年第3回である。従来「イルミネーション」を側面から支援してきたが、本年度はNPO 法人生活デザインセンター主催でおこなった。



みなみ野冬のイルミネーションの様子

3 - 4 - 2 活動の経緯と目的

NPO 法人生活デザインセンター主催であるので、従来からの「イルミネーション」から更に充実した企画とすることとした。

3 - 4 - 3 活動の内容

具体的には、1)全体企画及び統一感の演出をおこなった。2)「イルミネーション」の名称を正式に「みなみ野冬のイルミネーション」とし、ポスター及びチラシを本格的にデザインした。3)「看板」を制作し2ヶ所設置した。4)点灯式にあわせ、トワみなみ野イベント広場で、ミニ・コンサートをを行った。5)資金面での協力を、従来の建設関連企業及び大手企業その他、地元商店街にお願いした。6)住民からの要望もあり、点灯期間を1月15日まで延長し、クリスマスの飾り付けは26日に撤去した。

1) 主催・後援・協賛

主催 NPO 法人生活デザインセンター

後援 八王子市 (社)八王子商工会議所 都市基盤整備公団

協賛 57社 内地元商店 19社

2) 企画 統一感を演出、中核展示として「サンタのお家」を制作

(日本工学院八王子専門学校マルチメディア科)

イベント(ミニ・コンサート)の開催

(同コンサート・イベント科)

3) チラシ・ポスター等の制作 東京造形大学

4) 参加者 住民団体 4(内町会3) 企業 2(内公社1) 学校 4

住民及び企業の参加者が減少し、高等教育機関(大学、専門学校等)の役割が大きくなっている。

5) 飾り付けの特徴

プレゼントやリースを用いて、イルミネーション全体のデザインまとまりを演出
サンタクロースの「おうち」はテーマ館的役割を果たした。

七国小学校と東京家政学院大学の飾り付けコラボレーションは飾り付けだけでなくイベント的な面白さがプログラムされている新しい試みであった。



上:住民や地元の学校参加による手作りのイルミネーション

6) イベント

フォルクローレ 東京造形大学
ゴスペル 日本工学院八王子専門学校
アコーディオン 加藤宣利
リコーダー 七国小学校5年生
合唱 東京家政学院大学
甘酒提供 みなみ野3丁目町会

3 - 4 - 4 活動の成果

- 1) 「みなみ野冬のイルミネーション」の向かう方向が、温かい手作りのイルミネーションであることが確認された。
- 2) イルミネーション全体の統一を図るとともに、サンタクロースのおうち等、新しい展示方法によって強いインパクトを与えることができた。
- 3) 七国小学校と東京家政学院大学等との連携で行われている「総合的な学習の時間」の中で、「こんな町になったらいいな！」という願いを込めて、「オーナメント」をブラバンで作成し、これを小学生と大学生の共同作業で飾り付けを行った。

この取り組みは、小学生の心の中に大きな印象を刻み付けたようで、2～3人の塾帰りと思われる子どもたちが自分達の飾ったイルミネーションに立ち寄りたり、親子でオーナメントを確認したり、お母さんが子どものオーナメントを探したりと、ほほえましい光景が数多く確認された。

又、点灯式には七国小学校のリコーダーの演奏もあって、多数の親子での参加が見られ地域のイベントにふさわしいにぎやかな集まりとなった。

3 - 3で報告した、ガイドブック作成の動機付けとしても大きな役割を果たした。子ども達の活動の成果が町の中に表現され、これが住民によって享受される状況を作

ることは、子ども達を地域の中で育む1つの方法ではないか。
このような意味で、今後のイベントのあり方を考える契機となった。

3 - 4 - 5 今後の展開

- 1) 学校関係の積極的な参加に比べて住民・企業の参加が少ない。特に町内会の参加を期待したい。このためには早期に準備会を立ち上げ、活発な宣伝活動が重要である。参加費の徴収も検討する必要がある。
- 2) 平成15年度は七国小学校のみの参加であったが、みなみ野小学校や保育園などにも広く参加を募りたい。
- 3) 「みなみ野冬のイルミネーション」の企画、特にテーマ設定など今後このイベントの充実を図りたい。

3 - 4 - 6 活動のポイント

- 1) 活動の人材 隣接の日本工学院八王子専門学校マルチメディア科、コンサート・イベント学科の参加によってその専門的知識を活用できた。
- 2) 活動のための資金調達 地元商店の協力を拡大した。
- 3) 活動のネットワーク 総合学習といった活動でのネットワークがこのイベントに重なり大きな力を発揮した。

3 - 5 まちづくり憲章作成に向けたワークショップ

3 - 5 - 1 活動の背景

平成15年11月に八王子みなみ野シティにショッピングセンターがオープンし、人口は11,120人(H15.12末時点)を超え、街が自立し始めている。NPO法人生活デザインセンターでは、人々の交流・連携を図り、誰もが、安全に、安心して、いきいきと生活できる「ユニバーサルデザインのまちづくり」を推進している。

3 - 5 - 2 活動の経緯と目的

NPO 法人生活デザインセンターの「ユニバーサルデザインのまちづくり」の研究の一つとして、ワークショップ方式を用いた「まちづくり(コミュニティ)憲章」の作成に取り組むこととなった。これは、生活者の視点から快適に生活できるための「まちの育成」更には「地域コミュニティ形成」等を目指して、NPO 法人生活デザインセンターと地域の住民が一体となり、「生活、環境、住まい」等について協働で考え、実行していくことを目的として開催した。

3 - 5 - 3 活動の内容

(1) 実施日時及び参加者数

第一回ワークショップは、3つの班(町会等学校等関係者(保育,小学校,学童保育,中学校,PTA,大学の学生・教授・職員) 企業・商業主等)に分かれて行った。第二回ワークショップは、3グループ合同で行った。実施日時及び参加者数は以下の通りとなっている。

第一回ワークショップ

日時:平成16年2月14日(土) 10:00~2:00(町会等)、13:00~15:00(企業・商業主等)及び17日(火)16:00~18:00(学校関係)

参加者:延べ42名(町会等、企業・商業主等、学校関係)

第二回ワークショップ

日時:平成16年2月28日(土)10:00~12:00(3グループ合同)

(2) 参加者によるテーマ

各ワークショップで扱ったテーマは以下の通りとなっている。

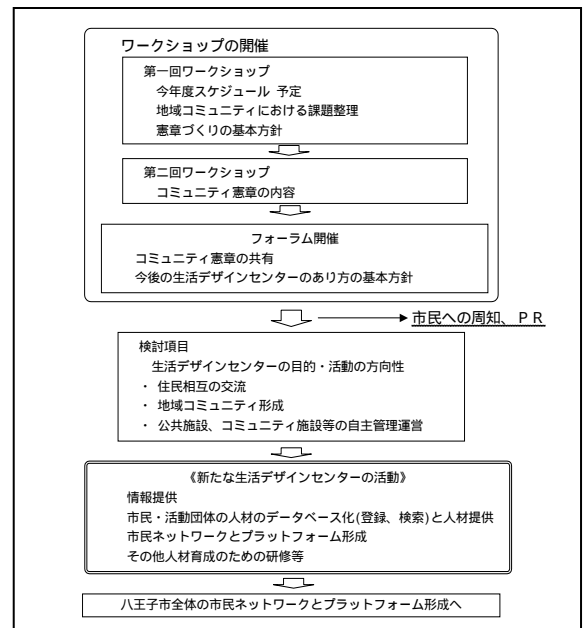
ワークショップのテーマ

	第一回(2/14 及び 2/17)	第二回(2/28)
テーマ	地域コミュニティの課題整理 憲章づくりの基本方針の作成	まちづくり(コミュニティ)憲章の内容の検討

(3) 活動の特徴

八王子みなみ野シティにかかわる人々が参加したワークショップを通じて「まちづくり(コミュニティ)憲章」を作成することにとどまらず、今後のNPO 法人生活デザインセンターの活動の方向性等を検討することも想定している。大きくは、NPO 法人生活デザインセンターが、八王子みなみ野シティの「地域コミュニティ形成」に役立つ「情報提供」「市民・活動団体の人材のデータベース化(登録、検索)と人材提供」「市民ネットワークとプラットフォーム形成」「その他人材育成のための研修」等の各機能を有することを視野に入れている。(図-1 参照)

図-1 ワークショップの流れ



3 - 5 - 4 活動の成果

第一回ワークショップでは、安全・安心、美化、自然環境、景観、歴史・文化、福祉、情報、コミュニティの8項目について意見を出した。第二回ワークショップでは、憲章の基本方針を「てづくりのまち」「お互いに支えあうまち」「みんなが健康なまち」「共生・協働・共存できるまち」の4項目にまとめ、ジャンル別取組みの大綱を「安全・安心」「環境・美化」「福祉」「コミュニティ(ネットワーク、場づくり)」「コミュニティの協働(情報)」の5項目に分類した。

第一回、第二回のワークショップの結果をもとに「八王子みなみ野シティまちづくり憲章のたたき台」を以下のとおりまとめた。

八王子みなみ野シティまちづくり憲章のたたき台

基本方針

「てづくりのまち」

私たちは、みんなが住みたいまちを目指して、まちの今を知り、まちの歴史を学んでいきます。

八王子みなみ野シティに住むひと全てが合意したことに、みんなが楽しみながら参加し、取り組んでいくことによって、まちへの愛情を永続的に育む創生のまちを目指します。

「お互いに支えあうまち」

私たちは、里山文化の伝統を引き継ぎ、次世代につなげる新たな生活文化を創造していくため、新旧住民と世代間の融和を図りながら、心から隣の人を誘い合い、語りあってまちづくりを進めていきます。

毎日のあいさつや文化活動、祭りなどを通じて、人と人のつながりを大切にし、民・産・官・学が連携しながら新しい息吹を取り入れ、古いものを大切にするまちを目指します。

「みんなが健康で生き生きするまち」

私たちは、個々の生き生きとした主体的なライフスタイルを尊重しながら、まち全体で健康について考え、企業がまちと共に成長し、大人と子供と一緒にするまちの元気を探していきます。

子供からお年寄りまでがまちに関り、顔見知りになり、みんなの意見を汲み上げることによって、まちの一員として、誇りと愛着をもって住みつけたいと思う、誰もが安全に集えるまちを目指します。

「共生・共存のまち」

私たちは、人を癒し、自然と共存し、誰もがこのまちに住みたいと思うように、さまざまな地域資源の共有と創生の持続に努めていきます。

子供から大人までが自己表現の機会としてまちづくりに取り組むことによって、街並みの景観や緑・花を育て、いつまでも参加し続けられるアートとデザインのまちを目指します。

ジャンル別取組みの大綱

『安全・安心 ~心遣い~』

今すぐに行えることへの自主的参加、安全・安心のためのシステムづくり、安全・安心のための施設づくり

『環境・美化 ~心の豊かさ~』

まちの景観、美化管理への取り組みと合意づくり、地域の環境保全、緑の創出

『福祉 ~心のやすらぎ・心の健康~』

子育て、介護・健康への支援、ユニバーサルデザインの実現

『文化 ~心の豊かさ~』

地域文化の継承、まちを知る、次世代につなげる生活文化づくり

『コミュニティ ~心のつながり~』

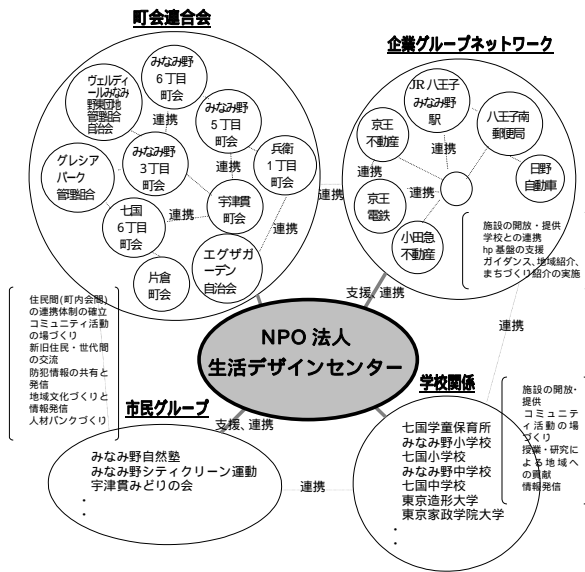
[ネットワーク・場づくり]

住民間(町内会間)の連携体制の確立、コミュニティ活動の場づくり、コミュニティ活動への参加と機会の創出・調整、新旧住民・世代間の交流、施設の開放・提供、施設の整備・誘致、授業・研究による地域への貢献、学校との連携

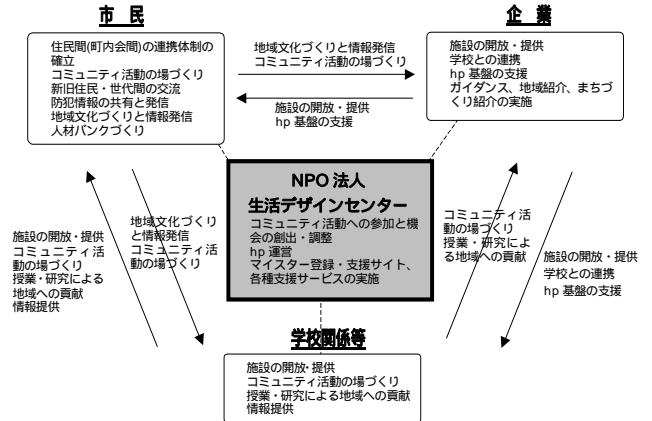
[情報]

防犯情報の共有と発信、地域文化づくりと情報発信、ガイダンス・地域紹介・まちづくり紹介の実施、人材バンクづくり、情報発信、hp 基盤の支援、hp 運営、マイスター登録・支援サイト・各種支援サービスの実施、みなみ野シティ公式 hp / minamino.net 移管への支援、掲示板等の運営

ジャンル別取組み・連携のイメージ



コミュニティ(ネットワーク・場づくり,情報)のイメージ



3 - 5 - 5 今後の展開

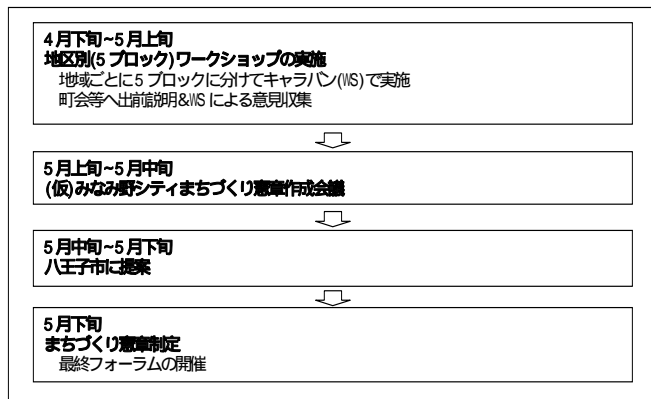
活動についての課題と今後の予定案

合計 4 回、延べ 73 人の参加によって、ワークショップ方式の意見交換を行ったが、八王子みなみ野シティに居住する一般住民の参加が非常に少なかった。

今回のワークショップ実施の目的は、単にまちづくり憲章を作成することだけでなく、八王子みなみ野シティにおける「まちの育成」と「地域コミュニティの形成」であることから、今後、幅広い層の住民が参加し、八王子みなみ野シティについて考え、議論し、将来の具体的な取組みにつながっていく機会を設けていくことが課題である。同時に、今回のようなワークショップその他の活動を、幅広い住民に、いかに周知し、参加を呼びかけていくかも重要な課題である。

以上を踏まえ、今後の予定を図-2 の通り検討している。

図-2 今後の予定



3 - 5 - 6 活動のポイント

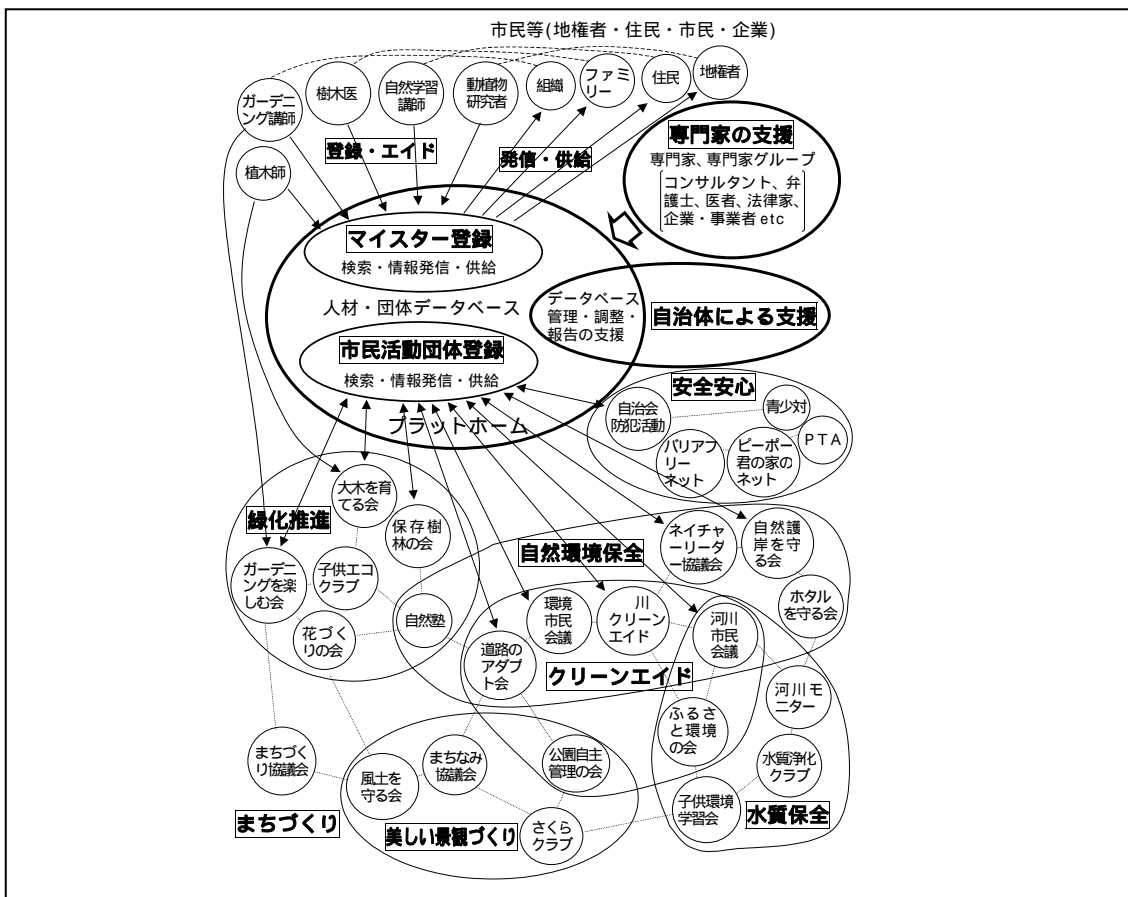
活動の人材

第一回ワークショップは、3つの班(町会等 学校等関係者(保育,小学校,学童保育,中学校,PTA,大学の学生・教授・職員) 企業・商業主等)に分かれて行った。参加への呼びかけは、地域の団体や町会,学校等、企業・商店等の代表者等約100名に対して、ワークショップ開催を呼びかける「チラシ」を配布した。このことにより多様な参加者が集まり、バランスの取れた人員構成のもとワークショップを開催することができた。

その他

ワークショップ実施の目的は、まちづくり憲章を作成することだけでなく、今後の八王子みなみ野シティにおける「まちの育成」と「地域コミュニティの形成」を実現し、持続していくための「市民ネットワークとプラットフォーム形成(図-3)」を視野に入れている。

図-3 市民ネットワークとプラットフォーム形成イメージ



4 今後の展開

- 1) ユニバーサルマップをつくるために、町を踏査する方法を開発し「みなみんぐ」と名づけた。地域内の学校に勤務する教員から小学生および中学生を主体とする実施について強い要望があり、授業の一環として継続的に行えるよう計画する。
- 2) ユニバーサルサインの実現に向けたより実践的なプログラムが計画し、実施の可能性を探る。
- 3) ユニバーサルサインの植物は、道路だけではなく公共施設などの入り口にも植栽し、屋内であればポプリをサインとして設置することを検討する。
- 4) サブテキスト的なガイドブックの作成を検討する。しかし当面は資料収集、又そのテキスト作成者を発掘することが必要で、むしろ「まちづくりサイト」を立ち上げ運営し、Web 上にガイドブックをアップし、順次更新されるシステムをつくりあげることが重要と考えられる
- 5) 「みなみ野冬のイルミネーション」の企画を充実させるとともに、平成15年度は七国小学校のみの参加であったが、みなみ野小学校や保育園などにも広く参加を募りたい。
- 6) 「まちづくり憲章」については更に幅広い層の住民が参加を促がし、八王子みなみ野シティについて考え、議論し、将来の具体的な取組みにつながっていく機会を設けていくことが課題である。同時に、ワークショップその他の活動を、幅広い住民に、周知し、参加を呼びかけていくかが重要な課題である。